

水通信



2022.2.25

第184号

「水通信」は、水資源機構（主に中部管内）における取組に関する情報を、中部管内の関係者（県、市町村、土地改良区その他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

※目次の事業所名等をクリックすると、その事業所等の記事に移動します。

各事業所名をクリックすると目次に戻ります

目次

☆ [【巻頭言】](#)

- 中部支社事業部次長 武田 真吾

☆ [【中部管内水源情報】](#)

☆ [インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』](#)

☆ 《新着情報》

[中部支社](#)

- 交通安全講習会を開催しました
- 災害時に使用するマンホールトイレの設置訓練を実施しました

豊川用水

- 令和3年度豊川用水環境学習会を開催しました
- 国民保護法についての講習会を開催しました

木曾川水系連絡導水路

- 揖斐川流域の紹介～羽根谷砂防堰堤（第一堰堤）

愛知用水

- 令和3年度環境学習会を開催しました
- 王滝村 村長に感謝状を贈呈しました

木曾川用水

- 中部管内木曾川水系配水勉強会を実施しました
- 愛知県の農業土木技術職員研修（管理実務研修）が行われました
- 関係利水者を対象に大堰と弥富管理所の見学会を実施しました

岩屋ダム

- 岩屋ダムからの利水補給を行っています

阿木川ダム

- イルミネーションを点灯させました！

徳山ダム

- エレベータの緊急時対応講習を実施しました

長良川河口堰

- 危機管理対応訓練を実施しました

味噌川ダム

- 「木曾谷新春狼煙（のろし）あげ」に参加しました

三重用水

- 水路等施設管理支援システムを活用した情報伝達訓練を実施しました
- 地域の皆様と協働して加佐登調整池周辺の清掃作業を実施しました

☆ 【イベントカレンダー】

- 令和4年3月～4月

☆ 【編集後記】

- 担当課 中部支社総務部 総務課

巻頭言

【中部支社事業部次長 武田 真吾】

2020年の春先から始まった新型コロナウイルス感染症の流行は、いまだ収束の気配もなく2年が過ぎようとしています。この2年の間に私たちの生活は大きく様変わりし、日常的に我慢を強いられるとともに、あって当然と思っていたものが不足することが、いかに社会生活に多大な影響をもたらすかということの思い知らされる2年でもありました。

思い起こしてみると、マスクや消毒薬の不足に始まり、PCR検査体制の構築、受け入れ病床の逼迫、ワクチンや抗原検査キットの不足など、急激な需要の高まりによる需供バランスの不均衡は、医療用物資の不足にとどまらず、医療従事者など多くの方々の使命感によってなんとか持ちこたえてきたという非常に危うい2年間でもありました。

さらに、普段の生活ではあまり気にすることのない縁の下の力持ち、エッセンシャルワーカーの重要性にも改めて気づかされることとなり、社会生活がいかに多くの方々に支えられて成り立っているのかを知ることになりました。

100年に一度のパンデミックに翻弄されつつも、どのように立ち向かってきたのか。(まだ収束の気配はみられませんが・・・)

これは、水資源の安定供給を使命とする我々の心構えにも参考とすべき点が多々あり、いつか来るであろうH6規模の異常渇水の再来に対して、ハード・ソフト両面から検討しておくことの重要性を改めて認識させられました。

その検討のヒントとなるのが、水通信176号で紹介した『中部地方水供給リスク管理検討会』（中部地方整備局が設置）での議論であり、11回目の会合が2月初めに開かれました。

この検討会は、水供給に影響が大きいリスク要因（渇水、地震、洪水、火山噴火、施設の老朽化による供給遮断等）が発生した場合の水供給の停止が、さまざまな地域や利用者に与える影響と被害の程度を明らかにすることを目的としており、矢作川をモデル水系として検討が始まり、現在は木曾川水系で検討が進められています。

今回の検討会では、気候変動に伴う異常渇水が発生した場合の地域毎の被害の程度が明らかにされ、同じ木曾川から水供給を受けていても、地域によって利水安全度に格差があることが明らかにされました。

前回の検討会では、委員から「木曾川水系連絡導水路が完成した場合の影響を検討に含めなくてよいか」とのご意見をいただいています。

木曾川水系連絡導水路は平成6年のような異常渇水時に徳山ダムに確保した水を木曾川及び長良川に導水し、河川環境の改善を行うとともに、同じく徳山ダムで開発した都市用水を尾張地方に供給する重要な役割を担っています。

将来起こりうる異常渇水をはじめとする水供給リスクについて、この検討会でどのような議論がなされるのか見守っていきたいと思います。

中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける2月24日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曾川水系の4ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の2月降雨量は平年を下回る状況（平年比48%～85%）となっており、4ダム合計の貯水率は63%（平年比93%）と、平年を下回る貯水状況となっています。

なお、牧尾ダム及び岩屋ダムでは、3月末に向けて主として発電による貯水池運用により貯水量が計画的に低下していきます。

木曾川水系においては、少雨に伴う河川流況の悪化により、ダムからの利水補給を行っているため、今後の降雨、貯水状況に注視していきます。

豊川水系の宇連ダム及び大島ダムの2月降雨量は、平年を下回る状況（平年比34%～55%）となっており、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率は58%（平年比86%）と平年を下回る貯水状況となっています。

豊川水系においても、少雨に伴う河川流況の悪化により、ダムからの利水補給を行っているため、今後の降雨、貯水状況に注視していきます。

中部管内各ダムにおける2月の降雨及び利水貯水率（2月24日現在） 単位：（%）

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	49	63	85	48	34	55	22	130
利水貯水率 (平年比)	27.6 (92.0)	60.0 (74.8)	88.4 (95.7)	91.0 (96.8)	42.3 (71.8)	85.0 (101.5)	85.4 (103.4)	100 (100)

木曾川水系各ダムにおける積雪状況 単位：（cm）

	牧尾ダム (八海山地点)	味噌川ダム (ワサビ沢地点)	岩屋ダム (檜谷地点)	徳山ダム (塚地点)
(調査日)	(2/21)	(2/20)	(2/21)	(2/21)
積雪深	102	114	98	209
平均値	69	77	58	118

※ データ提供元：(岩屋ダム) 岐阜県高山土木事務所 (徳山ダム) 国土交通省
平均値：調査日同日又は該当する旬の近10ヶ年平均値

- 中部支社管内の各ダム貯水状況等は中部支社HP内の「水源情報」でご覧いただけます。
中部支社HP <https://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html>

「水源情報コーナー」

- ◆リアルタイム情報 <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html>
- ◆中部管内の水源状況 (平日更新) <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/>
- ◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など
<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou03-1.html>
- ◆木曾川水系各ダムの積雪状況
<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/2022/220221sekisetsu.pdf>



■名古屋城天守閣と桜

インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

中部支社メールマガジン水通信では、令和3年より新たなコミュニケーションツールとして、水資源開発施設の建設・管理に携わる「人」に焦点を当て、それぞれのスペシャリストにインタビューを行う『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』を掲載しています。

今回は、11月1日付けで長良川河口堰管理所に転入してきました若手職員に、業務や趣味のことなどについてお話を伺いました。



(写真：長良川河口堰を背景にインタビューを受ける安樂さん)

<Profile>

安樂 美希 Miki Anraku

長良川河口堰管理所 環境課

平成31年 独立行政法人水資源機構 採用
池田総合管理所に配属

令和3年11月 長良川河口堰管理所へ異動
現在に至る

安樂さんは平成31（令和元）年に水資源機構（以下「機構」という。）に採用され、これまでどのような業務を経験されてきたのですか。

—— 採用1年目は徳島県にある池田総合管理所 第一管理課で防災・洪水関係の業務を担当しました。第一管理課では吉野川で管理する4ダム（池田ダム、早明浦ダム、新宮ダム、富郷ダム）の総括や取りまとめを行っており、国土交通省等関係機関との調整について学ぶことができました。また、池田ダムでは交替勤務として、24時間365日職員が水位管理を行っていたので、夜間一人の時には緊張しながら河川状況の監視と操作を行ったのを今でも覚えています。

2年目からは池田総合管理所の出先である高知県の早明浦ダム・高知分水管理所へ内部異動し、水質と維持管理工事の担当となりました。実際に工事監督や船舶での湖面巡視、採水作業を行うことで、ダム管理に関する報告書がどのような過程で作成されるか身をもって知ることができ、非常に勉強になりました。

これらの中でも、特に防災業務においてはゲートの操作、予測計算、下流巡視、関係機関への通知と一通り経験させていただき、「地域の人々の生命・財産を守る」という強い使命感を持って業務を遂行することができました。

職員として採用されるまで、機構のことはご存知でしたか。

—— 大学2年生の時にインターンシップ先を探している際、実家の近くにある川上ダムで募集があり、その時に初めて知りました。それまで、ダムは全て国土交通省が管理しているものと思っていました。

機構のことはインターンシップでお知りになられたのですね。実際にインターンシップには参加されましたか。参加されたのであれば、その際の職場の印象について教えてください。

—— はい、川上ダムでのインターンシップに2週間参加させていただきました。

当時はまだ付替道路や法面工事、環境調査等を行っている段階で、ダムの建設ではダム本体のみでなく、関連する様々な工事や調査があることを知りました。また職場の雰囲気も良く、このときに機構で働きたいと意識するようになりました。

就職して初めての勤務地が徳島県にある池田総合管理所でしたが、配属が通知された際の心境を教えてください。

—— 出身が三重県で、これまで四国を訪れたことが全くなかったので、職場や仕事のイメージが掴めず不安な気持ちもありましたが、就職して新しい環境でこれから過ごすことにとってもワクワクしたのを覚えています。

また、新規職員採用研修の際に『配属先にはベテランの先輩方が揃っているので、心配しなくても大丈夫だよ』との前情報をいただいていたので、仕事についていけるよう頑張るぞとモチベーションが上がっていました。

研修の際に配属先について教えてもらったのは心強かったですね。実際に勤務してみて、池田総合管理所での業務や生活はいかがでしたか。

—— 仕事に慣れない上に業務内容が多岐にわたり、さらに出水期には防災業務も多かったので大変ではありましたが、ベテランの先輩方が丁寧に教えてくれたので心強かったです。また、職場の雰囲気も一体感があってとても良かったので、大変な中でも楽しく仕事ことができました。

業務多忙な中でも良い雰囲気で行えるのはとても良いことですね。ところで、徳島と言えば阿波踊りですが、池田総合管理所や宿舎のある三好市でも阿波踊りが行われており、過去には職員も多数参加しています。安樂さんは阿波踊りには参加されましたか。

—— 実は、三好市の阿波踊りの日は防災対応中でしたので、機構としての参加は中止になりましたが、帰宅につく際にまだお祭りが行われており、同期4人と一緒に飛び入り参加で踊りました。笑。また、旧吉野川河口堰が参加している徳島市の阿波踊りにも参加させていただきました。こちらは規模がとても大きくて、観客の前で踊るのがとても緊張したのを覚えています。

徳島の文化にも触れることができ、楽しい思い出が作れたようで何よりです。

そして、池田総合管理所での2年半に及ぶ勤務の後、昨年11月1日付けで長良川河口堰管理所に人事異動されました。この異動のお話を聞いた時の心境について教えてください。また、「長良川河口堰」と聞いて思い浮かんだことは何でしょうか。

—— 正直なところ、多くの職員が動く4月に異動するものと思い込んでいました。秋の異動は全く予想していなかったので、異動の話があったときは自身のことだと気付かせませんでした笑。

長良川河口堰には大学の際に一度訪れたことがありましたので、河口堰と言えば「アユ」が最初に思い浮かびました。採用当初から環境に関わる仕事を希望していたので、環境課配属と聞いてとても嬉しかったです。

安楽さんは今回が初めての転勤となりますが、初転勤を経験してみてどのような点が大変でしたか。大変だったこと、面白かったことなど、感じたことがあれば教えてください。

—— 最初にお話したとおり、実は引越を伴う異動は2回目でしたので、荷物の片付けは苦になりませんでした。業務上必要となるデータの引越しに時間を要し苦労しました。特に今回は内部異動ではなく管外への異動のため、データの移設が容易ではなく、泣く泣く四国に置いてきたものも少なからずありました。

また、池田総合管理所ではダム管理を行っていましたが、河口堰の管理方法がダムとは大きく異なることに驚きました。機構に採用されて3年目ですが、初めてのことばかりで事務所が違ふとこんなにも違ふのかと正直戸惑いました。

人事異動の度に新たな発見がありますが、その分仕事もリセットされるので、楽しいことも大変なこともどちらも経験できますね。

さて、新しい勤務先での業務も3ヶ月が経過しました。現在は長良川河口堰管理所でどのような業務に携わられていますか。

—— 現在は環境課で、アユや底生魚等の生物、水質に関する仕事に携わっています。長良川河口堰では様々な種類の魚道があり、環境に配慮したゲート操作などの取組みが多いので、初めてのことで覚えるのが大変ですが、元々生物が好きということもあり、楽しみながら業務を覚えています。難しい業務も上司や先輩方に教えていただきながら、日々精進しています。

生活環境が変わり、仕事にも普段の生活においても慣れない日々が続いているかと思いますが、ストレス解消のためにしていることや趣味などについて教えてください。

—— 食べるのが好きなので、休日のご当地グルメやスイーツ、特産物を探す旅に出掛けることが趣味です。最近では新型コロナウイルスの感染予防対策のため遠出ができませんが、近くの道の駅や朝市で特産物を購入し、自宅で料理することがストレス解消になっています。

新型コロナウイルス感染の状況が落ち着き、遠出ができるようになりましたら、ドライブも兼ねて美味しいものを探しに出かけたいと思います。

安楽さんが四国で発見された美味しいもの、おすすめのものを教えてください。また、長良川河口堰周辺で何か美味しいものは発見できましたか。

—— 四国ではうどんがおいしかったです。香川に近い場所でもあったので、よく食べ歩きに行きました。また、定番ですが、高知のカツオのたたきが最高でした。安芸市の生しらすや、愛媛のみかんなど、挙げたらきりがありません（鹿肉バーガーなどジビエもおいしかったです）。

まだ長良川河口堰周辺は探索できておらず、これから探す予定ですが、桑名はハマグリが有名ですので、ハマグリがおいしいお店を探しています。

最後になりますが、今後どのように活躍したいと考えておられますか。また、今後どのような仕事を経験したいと考えられていますか。

— 機構に入ってから環境を学び始めたのでまだまだ勉強不足ではありますが、好きなことを力にして知識と経験を吸収していき、環境ならこの人に聞けばと言われるぐらい、頼りになる環境のスペシャリストを目指しています。また、気候変動に伴い、今後より重要性が増していくと思われる防災業務には、環境と同じくらい力を入れて取り組みたいと考えています。そのためには、日々の業務から基準や法律等を学び、知識を広めることで、様々な観点から物事を見ることができるよう鍛えていきたいと考えています。憧れの先輩のように頼りになる職員になれるよう、これからも尽力していく所存です。

年度末に差し掛かる業務多忙な時期に、インタビューにお応えいただきありがとうございました。採用されてから内部異動を含め様々な業務を経験し、防災業務についても意欲的に取り組み、また現在は「環境のスペシャリストを目指したい」と日々の業務に意欲的に取り組まれている様子から、業務に対する意識の高さを垣間見ることができました。

引き続き高い意欲で環境や防災のスペシャリストを目指すとともに、今後のさらなるご活躍を期待しております。

安樂さんの活躍ぶりを簡単ですが写真にてご紹介させていただきます。



(写真左： 採用1年目に四国ブロック技術研究発表会で優秀賞を受賞した際の表彰式の様子)



(写真右： 徳島市の阿波踊りに旧吉野川河口堰管理所の職員らと参加した際の集合写真)

水資源機構中部支社では、水の安定供給を支える「人」に焦点を当てたインタビューコーナーを今後も特集として掲載していきます。インタビューに応じていただける方を引き続き募集しておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

《新着情報》

中部支社

○ 交通安全講習会を開催しました

1月19日（水）、中部支社において交通安全講習会を開催しました。

寒い日が続く中ではありましたが、愛知県中警察署交通課より講師をお招きし、愛知県内における交通事故の状況や、飲酒運転、自転車運転における留意点などについてお話いただきました。

当日は、在宅勤務者等を除く34名が参加し、運転に関するアドバイスや注意事項等に耳を傾けていました。

中部支社のある名古屋市中区の特徴として、駐車場が少ないことから自転車で移動する方が多く、自転車による事故や交通違反が多発しているとのことです。このことを踏まえ、自転車運転における交通法規の再認識や、一方通行の道路における自転車走行の考え方などを学びました。

また、飲酒運転が増加していることを踏まえ、「飲酒体験ゴーグル」を用いて視野や平衡感覚の欠如を職員に体験してもらうとともに、本年10月の改正道路交通法施行規則の施行に伴い、事業用車両を運転する際のアルコールチェックの義務付け等が始まるということを周知いただきました。中部支社においても職員が公用車を運転することから、運転開始前及び運転後のアルコールチェックにつきまして、安全運転管理要領を改正し適切に運用していきます。

愛知県は、これまで死亡事故者数全国ワースト1位が続いていましたが、昨年は死亡者数が減少し、ワースト7位となったそうです。今後も死亡事故者数を減らすべく積極的に啓発や取締り等を行っているとのことで、中部支社一同事故に遭わないという強い気持ちを持って運転する決意を新たにしました。



■ 感染対策を講じて講習会を実施



■ 飲酒ゴーグルを用いた歩行体験

○ 災害時に使用するマンホールトイレの設置訓練を実施しました

東日本大地震や熊本地震の際に使用された「マンホールトイレ」を中部支社でも備蓄しています。

マンホールトイレとは、地震等で庁舎内のトイレが使用出来なくなった場合、下水のマンホール上に直接設置する簡易トイレで迅速にトイレ機能を確保するものです。

中部支社では、この設置訓練を2月3日（木）に、敷地内の下水マンホール上で実施し、支社長をはじめ18人が参加して悪戦苦闘しながら完成させました。

同時に、既設トイレに設置して流さず固めて捨てる「非常用トイレ」も使い方を確認する訓練を実施しました。

災害の備蓄品は、食料や飲料水などの非常食はもとより、人が生活する上で欠かせないものもあります。

今後も、実災害が発生して電気、ガス、水道の供給が途絶えてしまった場合、何が必要になるかを検討し、備蓄品を確保していきたいと思えます。



■マンホールトイレの設置訓練の様子



■完成したマンホールトイレ



豊川用水総合事業部

○ 令和3年度豊川用水環境学習会を開催しました

令和3年12月1日（水）、豊川用水総合事業部にて、環境保全に対する意識向上を目的に、当機構職員のほか、土地改良区、愛知県及び静岡県関係機関から総勢48名（WEB参加を含む）が参加して「令和3年度豊川用水環境学習会」を開催しました。

今年度は「環境DNA研究の現状と愛知県農総試の取り組み」をテーマに愛知県農業総合試験場から2名の講師をお招きしての講演となりました。

興味深い講演内容で参加された皆様は熱心に受講され、今後の業務遂行の参考にしていただけたのではないかと思います。

また、学習会終了後に提出していただいたアンケートを参考に、今後の環境学習会運営に活かしていきたいと思っております。



■ 学習会の様子

○ 国民保護法についての講習会を開催しました

令和3年12月9日（木）、豊川用水総合事業部にて、豊橋警察署警備課長を講師にお招きし、国民保護法についての知識向上を図るとともに、有事の際の国民の生命及び水資源機構施設の被害を最小限にすることを目的に、当事務所職員54名が参加して講習会を開催しました。

当機構は、国民保護法に定める指定公共機関のため、武力攻撃事態及び武力攻撃予測事態においては、国民保護措置及び緊急対処保護措置を実施するために必要な事項について「独立行政法人水資源機構国民保護業務細則」などで定めております。

講習会では、過去に起きたテロ事件の事例紹介などもあり、このようなテロ事件が、いつ身近で起きるかもしれないということを常に意識しながら業務を遂行していく必要があると、改めて認識しました。



■ 講習会の様子

木曾川水系連絡導水路建設所

○ 揖斐川流域の紹介～羽根谷砂防堰堤（第一堰堤）

岐阜県海津市南濃町奥条地内に「羽根谷砂防堰堤（第一堰堤）（平成9年9月国登録有形文化財指定）」があります。明治初期の空積石の砂防堰堤としては最大級のもので、堤高約12m、堤長約52mの堰堤が巨石で築かれています。木曾三川分流工事の計画書を作成したオランダ人土木技師ヨハネス・デ・レーケの指導によるといわれ、現在でも堰堤が機能していることは当時の技術の高さを示しています。

付近は羽根谷だんだん公園として整備され、園内にある岐阜県さぼろ遊学館では土砂災害や防災に関する学習や体験（一部要予約）ができます。



■羽根谷砂防堰堤（第一堰堤）



■公園内より遠方に海津市街を望む



ブレイクタイム ことわざ
【 人事を尽くして 天命を待つ 】

・人としてやらなければいけないことや、できる限りのことをし、後は静かに運命に任せるということ。

愛知用水総合管理所

○ 令和3年度環境学習会を開催しました

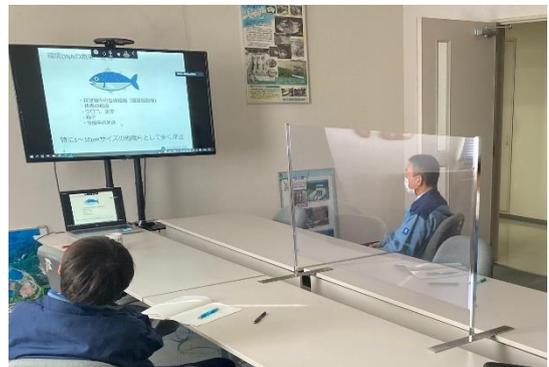
1月25日（火）に、愛知用水水管理事業における環境への配慮の一環として環境学習会を開催しました。

今年度は、愛知県農業総合試験場に講師を依頼し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮して各管理所はWEBで、在宅勤務者はリモートによる参加とするなど複数箇所を実施をし、計20名の機構職員が学習会に参加しました。

今回の環境学習会のテーマは、「愛知用水における環境DNA分析を用いたカワヒバリガイ調査結果」として、環境DNAとはなにかという根本的なところから、愛知用水における各所の調査結果や、今後の展望についてなど、より深く詳しいところまで総括的な講義をしていただきました。

学習会后、参加者のアンケートでは、「数年前から興味があった分野であった」、「下水疫学という分野が出来ていることに驚いた」、「継続的な調査を実施していただき、対策に係る知見を教示いただければ幸いです」などの意見があり、大変有意義な講義となりました。

愛知用水では新たな分野の知識を活用し、より良い水管理に役立てていくよう努めてまいります。



■ WEBで開催した環境学習会の様子

○ 王滝村 村長に感謝状を贈呈しました

愛知用水の水源地である牧尾ダムの所在する長野県木曾郡王滝村の瀬戸普村長が、2月11日の任期満了をもって退任されました。

瀬戸村長におかれましては、平成18（2006）年の村長選にて初当選され、以後4期16年もの間、村長を務められました。在任中は御嶽山の噴火や度重なる豪雨に見舞われるなどの出来事もありましたが、愛知用水水源地域の環境保全と地域振興に加え、上下流域の良好な関係の構築と維持に尽力され、下流域の発展に多大なる貢献をいただきました。

水資源機構としましては、瀬戸村長の長年の功績を称えるとともに感謝の意を示すため、瀬戸村長の最終登庁日となりました2月10日に金尾理事長の代理として坪井中部支社長、笠井愛知用水総合管理所長及び本田牧尾管理所長が王滝村役場へ来訪し、感謝状の贈呈を行いました。

水資源機構としましても、瀬戸村長の想いを継承し、愛知用水の水源地域と下流域の良好な関係を維持するために、広報に務めていく必要があると決意を新たにしました。

改めまして、この場をお借りして瀬戸村長の長年の功績に感謝申し上げるとともに、愛知用水の水源である王滝村の発展の一助となるよう引き続き尽力して参ります。



■感謝状贈呈の様子



■感謝状の本文

木曾川用水総合管理所

○ 中部管内木曾川水系配水勉強会を実施しました

12月8日（水）に中部支社管内7事務所の職員を対象として、木曾川水系配水勉強会が開催されました。

本勉強会は、木曾川における開発の経緯を理解すると共に、管理上も木曾川を通して繋がっている各事務所間の連携の重要性を改めて認識することを目的としたものです。

日頃の管理で密接に繋がっているにもかかわらず、コロナ禍にあって一堂に会する機会を設けることができなかつたところですが、感染状況が小康状態となっていたこともあり実施できたところです。

若手から中堅まで幅広い職員が集まり、改めて木曾川における水資源機構の役割の重要性を認識する場となりました。



■勉強会の様子

○ 愛知県の農業土木技術職員研修（管理実務研修）が行われました

12月15日（水）に、愛知県の農業土木技術職員を受講者とした管理実務の研修が木曾川用水で行われました。

愛知県では農業土木技術職員を対象に職員の資質向上を図り、各業務を的確に遂行できることを目的とした各種技術研修を開催しています。

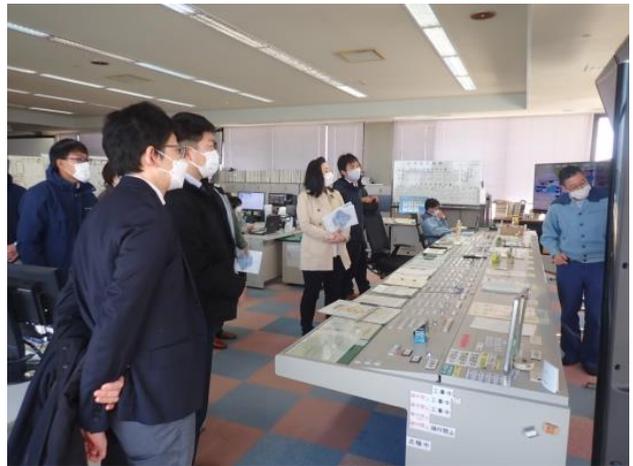
本研修は、県が管理する用水施設が少ないことから、配水管理や施設管理の実務を行っている機構職員を講師とし、県職員の管理業務の重要性の理解向上を図るとともに水管理を考慮した設計業務の技術向上を目的に実施したものです。

当日は、7名の受講者に講義を行いました。木曾川からの取水から末端の分水に至る一連の操作に関する具体的な質疑応答もあり、双方にとって充実した研修となりました。

今後も県、機構の相互理解を深めるためにもこのような研修を継続出来ればと思います。



■講義の様子



■操作室における説明

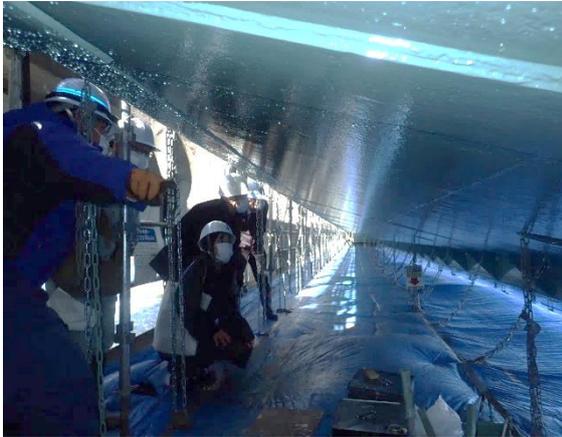
○ 関係利水者を対象に大堰と弥富管理所の見学会を実施しました

木曾川用水では、令和元年度より木曾川大堰ゲート設備の整備及び塗替え塗装を実施しています。また、弥富管理所においては、平成30年度より耐震対策として管理棟の建替え工事を実施し、必要な管理設備の移設等工事を順次実施するとともに、令和2年度より都市用水ポンプの分解整備を実施しています。

通常は間近に見ることの出来ない施設の現況と、更新整備の状況を利水者の皆様に確認いただくため、木曾川大堰及び弥富管理所の見学会を1月18日（火）に開催しました。

この見学会には、愛知県、名古屋市、木曾川右岸用水土地改良区連合、海部土地改良区、木曾岬町土地改良区から10名の参加があり、工事に関する質問への回答や、施設更新の必

要性について説明するとともに工事実施における水管理・運用上のリスクなど共有を図りました。



■ ゲート扉体の状態確認



■ ポンプ設備の整備状況確認

岩屋ダム管理所

○ 岩屋ダムからの利水補給を行っています

岩屋ダムでは、令和3年の1年間で平年と比べ1.26倍となる3,158mmの降雨がありました。

しかしながら、秋以降の状況を見ますと10月の降雨は平年を大きく下回り、11月も平年より少ない状況となりました。

そのため、河川の流況も低減している状況にあり、11月に入ってからにはダムへ貯えた水を加えて流す「利水補給」を断続的に行っています。

降雨や降雪により補給と回復を繰り返していますが、1月末現在で利水容量は99.4%確保されており、これからも安定した水の供給に努めて参ります。



■ 岩屋ダム湖（東仙峡金山湖）

阿木川ダム管理所

○ イルミネーションを点灯させました！

阿木川ダムを多くの方々に利用していただけるように、クリスマスの前から約1ヶ月間、ダム入り口広場をイルミネーションで飾りました。

本取り組みは毎年の恒例イベントですが、阿木川ダム管理開始30周年であることから今年は防災資料館前に30周年記念のイルミネーションも設置しました。

今後も地域の皆様から愛される施設となるよう、阿木川ダム管理所では様々な取り組みを行って参ります。



■ 入口広場のイルミネーション



■ 防災資料館前のイルミネーション

徳山ダム管理所

○ エレベータの緊急時対応講習を実施しました

ダムには堤体内部点検の移動及び資材運搬のために使用するエレベータが設置されており、1月24日（月）に緊急時対応訓練として地震発生時のエレベータの対応講習を実施しました。

エレベータ内からの連絡手段である内線電話及びインターホンの設置箇所の確認、実際にインターホンを使用して管理所内との通信のテストを行いました。

また、最寄りの階まで低速運転して停止するなどの地震発生時にエレベータがどのような動き方をするかを確認しました。今後も様々な訓練を実施して参ります。



■ 堤体内エレベータの説明を受ける職員



■ 地震発生時に表示される内容を確認

長良川河口堰管理所

○ 危機管理対応訓練を実施しました

2月9日（水）に長良川河口堰管理所において、危機管理対応訓練を実施しました。

訓練では、大規模地震発生を想定し、安否確認システムを用いた非常参集訓練を行うと共に、津波想定区域を避けた宿舎からの安全ルートを実際に歩いて確認し、管理所までの参集訓練を行いました。

また、異常高潮に備えて、除塩ポンプの機側操作訓練や、一般の方が利用する魚道観察室の水密扉開閉訓練を行いました。

当管理所では、いつ起こるともわからない地震や津波に加え、高潮に対しても的確かつ迅速に対応できるよう、今後も定期的な訓練を継続していきます。



■ 宿舎からの安全ルート確認訓練



■ 除塩ポンプの機側操作訓練

味噌川ダム管理所

○ 「木曾谷新春狼煙（のろし）あげ」に参加しました

木曾谷（旧中山道でつながる木曾郡内から塩尻市にかけて）の新春の風物詩である「のろしあげ」が行われました。

今年は、降雪の悪天候にもかかわらず、全会場（20カ所）合わせて230人ほどが参加されました。

味噌川ダムの職員も水の始発駅公園での狼煙あげに参加させていただき、空にもくもく立ち上る煙を見ながら、今年1年間の安全を願いました。



■ のろしあげの準備完了



■ のろしあげの様子



ブレイクタイム 俳句

【梅が香に のっと日の出る 山路かな】松尾芭蕉

・薄暗い夜明けに山道を歩いていたら、どこからともなく漂う梅の花の香りに誘われるよう、太陽がのっと昇り現れた

三重用水管理所

○ 水路等施設管理支援システムを活用した情報伝達訓練を実施しました

1月17日（月）、地震時の点検結果や災害発生の有無について、これまで以上に迅速かつ効率的な情報共有等を図るため、水路等施設管理支援システムを活用した情報伝達の習熟度を向上させることを目的とした情報伝達訓練を実施しました。

電子情報端末であるタブレットによる入力操作の訓練を行うことにより、同システム活用のための習熟度の向上を図ることができました。

今後もこうしたIT機器を活用した三重用水施設の管理を推進していくことにより、管理技術の向上・省力化に努めてまいります。



■タブレットによる入力操作訓練中

○ 地域の皆様と協働して加佐登調整池周辺の清掃作業を実施しました

1月27日（木）、鈴鹿市の加佐登地区まちづくり協議会の皆様と三重用水管理所とが連携して加佐登調整池の清掃作業を実施しました。

現在、調整池法面工事に伴い貯水位を低下させているため、調整池の法面に溜まったゴミの清掃作業が今回可能となりました。

三重用水が地域の皆様により親しまれる、そして信頼されるようこうした取組を続けてまいります。



■清掃作業の様子

イベントカレンダー

中部管内関連のイベントカレンダー 【令和4年3月～4月】

新型コロナウイルス感染防止のため、各イベントについては自粛しております

編集後記

【担当課：中部支社総務部 総務課】

2022年も2か月が過ぎようとしています。新型コロナウイルスのオミクロン株が猛威を振るい多数の方が亡くなられ、心からお悔やみ申し上げます。

また、陽性になり療養中の方におかれましては、お見舞い申し上げるとともに早期の快復をお祈りします。

さて、2月は「にげる」ともいい、あつという間です。

3月は年度末の決算月と人事異動の準備であわただしくなり、4月は異動等で新しい方たちの新生活がスタートします。

ここ2年間、歓送迎会等のイベントは、ほとんど中止になりました。送別会はお世話になった方へのお礼を込めて、歓迎会は新しい方とのコミュニケーションとか、昔からのイベントとして行われていました。

早く、インフルエンザなどと同じように共存できると、いつもの生活環境が戻ればと思います。

それとも、今後は新しい生活スタイルが始まるのでしょうか。

皆様におかれましてはお体に十分気をつけて年度末業務を乗り切ってください。

最後に

「飲み会は 多数ではなく 4人まで」

「マスクとり 食べたらずぐに マスクかけ」

を忘れずに



ブレイクタイム 四字熟語

【 雲外蒼天 (うんがいそうてん) 】

・苦境の中でも努力して乗り越えれば、その先には明るい未来が待っているという意味。

